

# ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 11

## 「鼻に命の息を吹き入れられた」

校長・園長 大矢 正 則

今年の夏は、那須にあるベタニア修道女会・聖ヨゼフ修道院で行われた黙想会に参加したことが最も大きな恵みでした。ベタニアのシスターの作って下さるお食事はとてもおいしく、室内外もきれいに清掃されており、2泊3日の短期間だったので、もう少し長く、ここに居たいと思ったものです。そこで森一弘司教様のご指導の下、創世記の冒頭をじっくりと読み、改めて感動しました。今回はそのことを書こうと思います。

私たちが生きていくためには、居場所が必要です。そこで神様は、最初から人間のために「エデンの園を設け」（創世記2章8節）してくださいました。食物も必要ですから「食べるに良いものをもたらしあらゆる木を生えいさせ」（同9節）してくださいました。

ところで、居場所や食物を必要としている人間とは、もともとは何だったのでしょうか。聖書によれば、「主なる神は、土の塵で人を形づくり」（同7節前半）とありますから、土だったのです。

話は変わりますが、先日、神奈川県伊勢原市にある曾祖母の墓参りに、約50年ぶりに！行きました。たまたま近くを車で通りかかったので、遠い記憶を辿り親戚の家を訪ね、叔父と一緒に、小高い丘の上にある霊園に行きました。その墓地の土を踏みしめたとき、50年も経っているのに曾祖母を埋葬したときのことが鮮明に脳裏に蘇ってきました。

「そう。この場所。ここにひいおばあさんをみんなで埋めた。」私は一緒に行った叔父に思わず呟きました。70歳を超えている叔父は、線香をあげながら、「よく覚えているなあ」と返してくれました。

50年くらい前にはまだ土葬がありました。曾祖母は土葬で埋葬されたのです。私が曾祖母の葬儀のことを思い出したのは、土葬されたその土の上に立ったからだだと思います。体が覚えていたのかもしれませんが。

話を戻します。といっても、曾祖母の土葬と無関係ではありません。聖書で語られている土は、死のシンボルなのだそう。横たわっている存在のシンボル。したがって、もともと土の塵で形づくられた人間は、常に横たわってしまいそうな、倒れてしまいそうな傾向を持ち合わせている。こういうことになります。人

はもともと死が原点にあるということさえできます。

しかし、先に引用した創世記2章7節「主なる神は、土の塵で人を形づくり」は、「その鼻に命の息を吹き入れられた」（同7節中間）と続きます。この短い記述にこそ、神様の本質が隠されています。特に「鼻に」の部分を見落としてはならないことを、今回知りました。

神様は、このとき、土の塵で形づくった人間にどういふ姿勢で息を吹き入れられたのか、私はこれまで想像したことがありませんでした。森司教様は黙想会中のインプット（黙想のための手がかりの講話）において、この箇所を、「そこ（土の塵で形づくられた人間）に命の息を吹き入れられたとき、神はしゃがみ込むこととなりますね」と話されました。こうして人間は初めて頭を上げて、まっすぐ生きていくことのできる存在となったわけです。つまり、私たちは、私たちと同じ高さ（低さ）にその存在をおいて下さった神様に息を吹き入れられたことによって生きる者となったのです！聖書はこのときの様子を「人はこうして生きる者となった」（同7節後半）と短く記しています。

単なる土の塵ではなく、息を吹き入れられ、頭を上げて生きようになった人間は、こうして前を向き、何かを切に求めてやまない、渇きを持つ存在となりました。それで、前述した居場所と食物を、神様は無条件に人間のために用意して下さいました。居場所と食物に続いて神様が下さったものが、仕事・役割でした。エデンの園を「耕し、守るようにされた」（同15節）とあります。かくも神様は自らが創造された人間の渇きに対して、それを満たし、喜ばせようと働いてくださいます。しかも、人間に対しては何の要求もなさらずに、『神様は無償の愛』と言われる所以です。

ところで、人間の方はここまで何の反応も示しません。しかし、人間に対して「彼に合う助ける者」（同18節）が造られると、初めて人間は反応します。「ついに、これこそわたしの骨の骨 わたしの肉の肉」（同23節）と。

神様から息吹をいただき、居場所や食物や仕事・役割を与えられても反応しなかった人間が、初めて変化したのは、向き合う人と出会ったときでした。そして、人間が味わった最初の感情は喜びでした。それで、私たちはいまも常に、それに渇き、求めているのです。

そして、人間の喜びもまた本質的に神の恵みであり、それが既に成っていることを聖書は語っているのです。